



防災と官民連携にこだわる

稲敷市長
寛 信太郎 氏

筑波銀行江戸崎支店長
梅原 隆之

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県稲敷市です。筑波銀行江戸崎支店長 梅原 隆之が稲敷市長 寛 信太郎氏にお話を伺いました。

市政運営2期目の取り組み

第1期目は、「未来のために今できることを誠実に、着実に実行する」ため、圏央道稲敷IC、稲敷東ICの周辺開発や企業誘致、教育環境の整備、コロナ対策などに取り組みました。第2期目は、「新たな視点で挑む、新たなステージのまちづくり」を掲げ、5年後、10年後を見据えた新たなまちづくりに取り組みます。具体的には、自治体新電力の運営、総合防災センターの整備、和田公園の観光拠点化等、本市が将来にわたって魅力と活力あるまちとなり、市民が住んで良かったと思えるまちを目指します。

官民連携の取り組み

農を中心に据えた官民連携によるまちづくり

2019年11月に本市と株式会社OSMICを含む4者間協定を締結し、「農業生産事業」と「都市農村交流事業」の2本柱でまちづくりを進めてきました。農業生産事業では、稲敷東ICに隣接する30ヘクタールの敷地に大規模農業ハウスを建設し、高糖度トマトの栽培を行っています。

都市農村交流事業は、2022年に策定した「稲敷東IC周辺地区官民連携まちづくり基本計画」に基づき「農業の企業誘致」と併せて実施しています。農業の企業誘致については、茨城県とも連携しています。稲敷東IC周辺は田んぼ（＝農地）が多く、農業は進出しやすい業態です。立地面でも、稲敷東ICから成田空港までわずか20分と、輸出を目指す企業にもアピールできます。さらに、最近はコメの価格が低下し、生産過剰気味なことから、市内の農家にもコメ以外の作物の生産を促すなど、本市の農業を活性化します。

ショッピングセンターとの連携

2023年3月、市内の「江戸崎ショッピングセンターパンプ」と「ショッピングセンター パルナ」との「持続可能な地域づくりの推進に関する包括連携協定」を締結しました。

江戸崎地区にある「パンプ」には、江戸崎中央公民館2階の図書室を移転し、蔵書の増加やバリアフリー対応、学習室の設置などを実現します。子ども達がワクワクして毎日通いたくなるような個性的な図書館にするため、今年度は、専門家の助言を得ながら計画を策定します。ショッピング

センターに図書館を置くと、市民の利便性が高まり、空き店舗の解消にもつながります。

また、東地区にある「パルナ」には、大型のLEDビジョンを設置し、市内外への情報発信の拠点とします。パルナの来店客数は年間800万人に上り、その半数以上は市外から来ているので、本市の宣伝や情報発信の効果が期待できます。

さらに、選挙の投票所や、農産物の直売所としての活用など、様々な取り組みを展開することで、市民生活の満足度向上を図っていきます。

株式会社いなしきエナジー

2023年1月にゼロカーボンシティ宣言を行うとともに、自治体新電力「株式会社いなしきエナジー」を設立しました。本市および事業パートナーのパシフィックパワー株式会社、地元金融機関3社（筑波銀行・常陽銀行・茨城県信用組合）との共同出資での設立です。

設立のきっかけは、2019年10月の令和元年台風第19号で、水害だけでなく広範囲にわたる停電が起これ、避難所の電力確保に非常に苦労した経験から「地域内で電力を自給自足すること」の必要性を強く感じたことです。

まずは、市内で発電された電力を買い取って公共施設等へ供給する小売電気事業を10月に開始する予定です。2022年4月から稼働している江戸崎地方衛生土木組合ごみ処理施設の発電電力を買い取り、市内の公共施設に送電します。

将来的には、市内4地区の公共施設や遊休地へ再生可能エネルギー設備を設置して発電を行い、蓄電池などを設置して地区の公共施設を接続してマイクログリッド（小規模電力網）を構築し、つくり出した電力を活用します。本市のレジリエンス（社会環境の変化に対応して生き抜くことができる力）を強化し、省エネの推進と防災への備えも充実させることを目指します。

防災への取り組み

私は、建設会社での勤務で社会人生活をスタートしました。就職したばかりの1991年、台風の被害からの復旧作業をきっかけに、被害を最小限に抑えるためには、いかに備えを万全にしておくかが重要であることを実感しました。さらに、市長就任後に起きた令和元年台風第19号の際は、正確な情報を、必要とする地区にいかに迅速に届けられるかの重要性も実感しました。当時は市民

に即時に情報を届ける手段は防災無線しかなく、避難が必要な地区に適切に情報を伝達することが難しい状況でした。

このような苦い経験をふまえ、2022年6月から「稲敷市公式アプリ」の配信を始めました。このアプリは、自分の居住する行政区を登録すると、その行政区に関連する避難指示や災害情報などがプッシュ型で通知される仕組みになっています。

しかし、せっかくアプリを整備しても、市民全員が情報を受け取れるモバイル端末を持っていないければ意味がないため、スマホ購入補助金を導入し、シニア世代の買い替えを進めました。65歳以上、初めてスマホを購入、そのスマホにアプリをインストールするなどの全ての要件を満たす方に最大3万円を補助します。スマホが普及すると、デジタル化に伴うサービスを受けられる市民が増加するので、防災とDX化の両方の面でメリットがあります。

また、コロナ禍に対応するため避難所の収容人数に定数を設定したため、収容人数は当初の約3分の1と試算され、改めて、避難施設の収容人数や避難時の誘導経路、備蓄品の状況等について調査する必要が出てきました。これに基づいて総合防災センターの整備も進めています。

避難所を補完するため、市内の民間事業者とも連携を進めています。9つあるゴルフ場とは災害時の駐車場開放、テーマパーク「こもれび森のイバライド」とは駐車場開放やレストランの食材の提供などの防災協定を締結し、災害に備えています。



観光振興

和田公園の再整備

和田岬とその周囲を含めた和田公園は、霞ヶ浦を代表する優れた景勝の地で、春にはチューリップが咲き誇り、松林に囲まれた広場では、年間を通じてデイキャンプやバーベキューが楽しめます。コロナ禍を経た近年は、人々のアウトドア志向が

一段と高まり、来訪者も急激に増加しています。

本市では、2022年度から和田公園の再整備に着手しており、松林や観察池等の修景、サイクリストを主とした室内休憩施設の整備、遊具の追加設置等を2024年度までに行う予定で、アウトドアアクティビティの拠点としてさらなる魅力アップを図ります。また、室内休憩施設は、地元の方々が担う公園管理の事務室にするとともに、地元和田集落の集会所としても利用する予定です。

稲敷市を堪能できるサイクリングコース

市内にサイクリング推奨コースを5コース設定しています。まず、日本を代表し、世界に誇りうるナショナルサイクルルートに指定されている総延長180キロメートルの「つくば霞ヶ浦りんりんロード」です。市内の距離は霞ヶ浦沿岸約23キロメートルで、和田公園も含まれています。ゆくゆくは、車でりんりんロードに来る人に和田公園を開始点としてPRしたいと考えています。

そして、本市内を周遊できる4つのコースがあり、それらを「イナシキライド」と名付けています。それぞれが本市の4地区を堪能できるコースで、市内飲食店や公共施設の協力で40か所のサイクルサポートステーションも整備しています。独自のサイクリングマップも作成し、おすすめのスポットやビューポイントを案内しています。今後は看板などコースの整備や、取手市など近隣自治体とも連携を図り利根川沿いのサイクリングロードの整備も進めたいと考えています。

ウィズコロナを見据えた観光ツアー創出

観光振興のための新たな取り組みとして、地域経済を支える観光資源を生み出すことを目的とした観光事業の創出があります。今年2月に「いばらきの日光東照宮」とも呼ばれている大杉神社を観光地としてアピールするため、神職体験や食と文化を楽しめるモニターツアーを実施しました。このツアーは観光庁の看板商品創出事業の支援事業に採択され、将来的なインバウンドへの活用を見据えて資源の磨き上げを図り、継続的な実施を目指して取り組んでいきます。

地域おこし協力隊の活躍

現在、本市では5人の地域おこし協力隊が様々な活動をしており、特産品「江戸崎かぼちゃ」の生産にも隊員が活躍しています。江戸崎かぼちゃは2015年に地理的表示（GI）保護制度に日本で

最初に登録された7品目の1つですが、GI表示を受けられる品質を保つためにきめ細かい作業が必須です。そのためか、生産者は最も多かった110軒から25軒にまで減少し、高齢化も進んでいます。隊員の活動はとても頼もしく、明るい将来を感じ、後継者に育つことを期待しています。

また、隊員の中には任期終了後に本市に定住した方も複数います。その中の1人で現在はゲストハウスを経営している方が現役の頃、コロナ禍を受け長期間リモートワークのため宿泊しているお客様がいました。私はそのことを聞いて新たなチャンスを感じました。そこで、リモートワークの拠点となるサテライトオフィスの運営および整備費用に補助をする制度を創設しました。

市民協働のまちづくり

本市は2005年に江戸崎町、新利根町、桜川村、東町が合併したため、南北13キロメートル、東西23キロメートルと広大です。合併後は4地区の一体化を目指し、あらゆる面で1つにしようとする施策を進めましたが、生活圏と文化の違いもあって、実現は難しい状況でした。

そのような中、2022年4月に本市全域が過疎地域に指定され、それを契機にまちづくりを抜本的に見直しました。4つの地区それぞれで自由な活動ができるよう、文化祭は公民館まつりとして、それぞれの地区で開催することとし、各地区の公民館職員が地域活動の支援を行っています。

また、2022年12月に「稲敷市持続可能な地域づくりプラン」を策定しました。このプランは、市民や地域おこし協力隊による4つの地区ごとのワークショップと、市民代表や有識者、市の執行部などによる委員会が両輪となって持続可能な地域づくりを目指すものです。充て職ではなく、純粋にやりたい人が参加しており、非常に盛り上がっています。

筑波銀行に期待すること

筑波銀行には、株式会社いなしきエナジーの設立に出資者として賛同してもらい、感謝しています。

引き続き、地元の住民に寄り添い、市民に愛される銀行として発展して欲しいと考えています。そして、コロナ禍のために傷ついた状態の本市の経済の回復と、本市の事業へもご理解、ご協力をお願いします。

（取材日：2023年3月29日）



わがまちの観光案内 —稲敷市—

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。

夏まつり花火大会

「いなしき夏まつり花火大会」は、1996(平成8)年からスタートした稲敷市最大の恒例イベントです。昼はステージイベント、夜は「花火大会」を中心に例年8月に開催されております。花火の打ち上げ総数は、茨城県内屈指の数を誇り、観客の皆さんを魅了しています。なかでも「これぞ！日本一のスターマイン」は圧巻で、稲敷の夜空を彩ります。



江戸崎祇園祭

江戸崎祇園祭は、毎年7月下旬の金曜日から日曜日までの3日間行われているお祭りです。由緒正しき舞と迫力の山車が目玉の、とても魅力的なお祭りとなっています。各町内から8台の山車が出て、街中を練り歩きます。神輿やお囃子、「稲敷たから音頭・あんば」の踊りなど、素晴らしいパレードが繰り広げられ、毎年多くの人々を楽しませています。

よことねこうもん 横利根閘門

横利根閘門は1914(大正3)年から約7年の大工事の末、1921(大正10)年に完成し、現在も利用されている我が国最大級の規模を持つ煉瓦造複閘式閘門です。我が国における土木技術史上、煉瓦造閘門のひとつの到達点を示す近代化遺産としての価値により、2000(平成12)年5月に重要文化財に指定されました。



こもれび森のイバライド

こもれび森のイバライドは、さわる。つくる。遊ぶ。食べる。自然を感じながら五感を育むことができるテーマパークです。シルバニアファミリーの世界観を楽しめる屋外型テーマパーク「シルバニアパーク」が併設しており、シルバニア村での楽しい時間を過ごすことができます。

